

平成26年度 国東市：全国学力・学習状況調査結果分析（中学校：国語）

1 結果のポイント

- ・全国平均との比較では、国語Aは+0.6ポイント（昨年度：-1.5ポイント）で全国平均を上回ったが、国語Bは-0.6ポイント（昨年度：-2.1ポイント）となり全国平均に届いていない。
- ・県平均との比較では、国語Aは+0.2ポイント（昨年度：-1.1ポイント）、国語Bも+0.2ポイント（昨年度：-1.4ポイント）となり県平均を上回った。
- ・当該学年が小学校第6学年のときの全国平均との差を比較すると、国語Aでは+3.6ポイント、国語Bでは+1.4ポイントとなり、伸びが見られる。
- ・領域別では、国語A・国語Bともに、「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は、全国平均を上回っている。

2 課題が見られた問題と指導の改善事項

(1) 読むこと（文学的な文章）

①出題の内容とねらい

文中の「ひとしくおれの方を見た」の適切な意味を選択し、文脈の中における語句の意味を理解しているかどうかをみる問題である。《A問題3》（二）

②解答状況

児童数の割合（%）

解 答 類 型	国東市	全国
・「ちらっと、おれの方を見た。」を選択	14.2	10.5
・「親しげに、おれの方を見た。」を選択	10.0	8.5
・「そろって、おれの方を見た。」を選択【正答】	74.6	79.8
・「熱心に、おれの方を見た。」を選択	1.3	1.0
・無解答	0.0	0.2

正答率は74.6%であり、全国平均正答率79.8%を5ポイント以上下回っている。14.2%の生徒が「ちらっと、おれの方を見た。」と解答している。

③指導の改善事項

文学的な文章で使われる語句を理解するためには、その語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈に即して意味や効果を捉えるように指導することが引き続き大切である。

(2) 話すこと・聞くこと

①出題の内容とねらい

話し合いの場面で、2人の意見の相違点について6字以内で記入し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討することができるかどうかをみる問題である。《A問題6》（一）

②解答状況

児童数の割合（%）

解 答 類 型	国東市	全国
(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。		

①高橋さんの推薦理由から「未来にはばたいていく私たちの姿を表す」という内容を適切に取り上げて相違点を書いている。		
②高橋さんの発言の中にある言葉を使って、6字以内で書いている。		
・条件①、②を満たして解答しているもの【正答】 なお、次のものも正答とする。 条件②について、高橋さんの発言の中にある言葉だけでなく、それ以外の言葉も使って書いているもの	49.2	54.3
・条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	0.4	0.3
・条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	45.0	37.6
・上記以外の解答	2.5	1.9
・無解答	2.9	5.9

正答率は49.2%であり、全国平均正答率54.3%を5ポイント以上下回っている。6字以内では書けているが、45.0%の生徒が高橋さんの推薦理由から「未来にはばたいていく私たちの姿を表す」という内容を適切に取り上げていない。

②指導の改善事項

複数の案から一つに絞り込む話し合いを行う際には、目的に応じて発言を整理しながら、議論の焦点を明確にする必要がある。例えば、図表を用いるなどして、共通点や相違点など様々な観点に沿って発言を整理する学習活動が有効である。その際、どのような観点を整理するかを明確にし、どのような図表を活用するのが有効かを考えることが大切である。

(3) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

①出題の内容とねらい

「英気を養う」の意味を「英気」と「養う」それぞれ意味を辞書で調べ、複数の意味から適切なものを選択し、辞書を活用して、語句の意味を適切に書くことができるかどうかをみる問題である。

《A問題8 (四)》

②解答状況

児童数の割合 (%)

解答類型	国東市	全国
(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。		
①【国語辞典】の、「英気」の②を説明している言葉と、「養う」の③を説明している言葉を使って書いている。		
②「英気を養う」の意味を適切に書いている。		
・条件①、②を満たして解答しているもの【正答】	53.8	59.9
・条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	12.9	12.4
・条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	0.0	0.8
・上記以外の解答	22.5	14.6
・無解答	10.8	12.3

正答率は53.8%であり、全国平均正答率59.9%を5ポイント以上下回っている。「英気」、「養う」それぞれの意味は正しく選択できているが、適切に書けていない生徒が12.9%いる。

③指導の改善事項

辞書を活用する際には、辞書の記述の仕方を理解した上で活用することが大切である。また、難語句を調べる際には、文脈に沿って語句の意味を選び、それが文中の意味として適切かどうかを確認することが重要である。

(4) 読むこと（説明的な文章）

①出題の内容とねらい

「本の一部」と「インターネットの情報の一部」についての内容を選択し、複数の資料を比較して読み、要旨を捉えることができるかどうかをみる問題である。《B問題2(一)》

②解答状況

児童数の割合 (%)

解答類型	国東市	全国
・「1 接着剤が物をくっつける代表的な仕組みについて、【本の一部】では物をくっつける過程を述べ、【インターネットの情報の一部】では図を用いて具体的に説明している。」を選択	27.5	29.8
・「2 接着剤の用途について、【本の一部】では意外なものに使われていることを述べ、【インターネットの情報の一部】では使用場面ごとに項目を立てて具体的に述べている。」を選択【正答】	29.6	31.4
・「3 接着剤が液体から固体になる変化の仕方について、【本の一部】では接着剤の種類ごとに述べ、【インターネットの種類の一部】では代表的な例を取り上げて説明している。」を選択	37.5	33.4
・「4 簡単にはがせる接着剤について、【本の一部】では簡単にはがれる仕組みを図を用いて説明し、【インターネットの情報の一部】ではその接着剤を利用した商品を紹介している。」を選択	5.0	4.8
・上記以外の解答	0.4	0.2
・無解答	0.0	0.6

正答率は29.6%であり、全国平均正答率31.4%をやや下回っている。37.5%の生徒が「接着剤が液体から固体になる変化の仕方について、『本の一部』では接着剤の種類ごとに述べ、『インターネットの情報の一部』では代表的な例を取り上げて説明している。」と解答し、27.5%の生徒が「接着剤が物をくっつける代表的な仕組みについて、『本の一部』では物をくっつける過程を述べ、『インターネットの情報の一部』では図を用いて具体的に説明している。」と解答している。

③指導の改善事項

目的に応じて文章の要旨を的確に捉えるためには、文章の特徴を踏まえて内容を正確に理解する必要がある。例えば、説明的な文章を読んで、更に調べたい内容を明確にした上で、様々な資料から必要な情報を的確に得る学習活動が有効である。その際、読む目的を明確にした上で、中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、必要な情報を正しく得るように指導することが大切である。

(5) 読むこと・書くこと

①出題の内容とねらい

資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くことができるかどうかをみる問題である。《B問題②(三)》

②解答状況

児童数の割合 (%)

解答類型	国東市	全国
(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ①切手を水の中にしばらく浸しておくときれいにはがすことができる理由を適切に書いている。 ②「切手」「液体」、「アンカー効果」という言葉を全て使って書いている。 ③20字以上、50字以内で書いている。		
・条件①、②、③を満たして解答しているもの【正答】	28.3	28.4
・条件①、②を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの	0.0	0.0
・条件①、③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	0.8	1.1
・条件②、③を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	55.8	49.4
・上記以外の解答	3.8	5.0
・無解答	11.3	16.0

正答率は28.3%であり、全国平均正答率28.4%とほぼ同じである。55.8%の生徒が、条件に上げられた「切手」、「液体」、「アンカー効果」という言葉を全て使い、さらに20字以上50字以内で書いているが、切手を水の中にしばらく浸しておくときれいにはがすことができる理由を適切に書けていない。

③指導の改善事項

本や文章を読んで得られた知識は、他の人に向けて説明することで一層明確になるとともに定着が図られる。説明する際には、複数の情報を正確に理解し、相手や目的に応じて取捨選択したり関係付けたりして、説明する内容を適切に表現することが求められる。

その際、以下の二点を意識するように指導することが大切である。

- ・本や資料から得た情報を正確に理解して整理しているか
- ・伝えたい内容を正確かつ分かりやすく述べているか

また、言語活動に取り組みさせる際には、評価規準を具体的に設定し、生徒が表現した内容が適切であるかどうかを判断し、必要に応じて指導を加えることが大切である。また、定期テスト等において、教科書で学習した文章とは違う文章で、身に付けた能力が定着しているかどうかを確認することも重要である。

3 指導の改善のポイント(全体を通して)

(1) 話すこと

目的に沿って話し合い、互いの発言を検討する授業において、①目的を確認し、多様な意見を出し合うこと、②図表等を使って、出された意見を観点(生徒自身が考えることが大切)を決めて整理すること、③結論に至った過程を説明することを重視して指導する。

(2) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

多様な語句の意味を理解し、適切に使う授業において、①言葉を集める目的を確認すること、②集めたい言葉を様々な辞書や本などから探すこと、③探した言葉を整理し、互いに読み合うことを重視した活動を行う。日常的な語句・語彙の指導に加え、まとまった言葉を学習する時間を設定するようにする。

(3) 読むこと

本や文章から適切な情報を得て、考えをまとめる授業において、①知りたいことを明確にして、本や文章を読むこと、②必要な情報を探し、書かれた内容を正しく捉えること、③知りたいことの答えを適切に書く活動を行う。情報を活用して疑問を解決する際に、正しく読めているか、適切に書けているかを教師が評価し、指導することが大切である。

(4) その他

- ・ 付けたい力を明確にし、その育成に適した「単元を貫く言語活動」を設定した課題解決的な展開の授業づくりを行う。
- ・ 情報を活用し、条件に応じて自分の意見や考えを書く活動の充実を図る。
- ・ 定着を図るため繰り返し学習ができる帯時間の学習や家庭学習の充実を図る。

【参考・引用】

平成26年度全国学力・学習状況調査報告書（文部科学省・国立教育政策研究所）